

Labo News

らぼニュース

発行所 公益社団法人愛知県臨床検査技師会
 住所 名古屋市中村区名駅5-16-17
 花車ビル南館 〒450-0002
 電話 052-581-1013
 F A X 052-586-5680
 ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>
 Eメール aamt@aichi-amt.or.jp
 取引銀行 三菱UFJ銀行 柳橋支店
 普通口座731-677
 発行人 中根生弥
 編集人 武山純也

No.445 目次

- ◆平成30年度スキルアップ研修会に参加して…………… (2)
- ◆平成30年度初級・職能開発講習会、都道府県ニューリーダー育成講習会、管理運営研修会、各研修会同日開催………… (3)
- ◆平成30年度管理運営研修会…………… (5)
- ◆平成30年度認知症対応力向上講習会に参加して…………… (6)
- ◆地区だより…………… (7)
- ◆世界禁煙デーキャンペーンボランティア募集について………… (9)
- ◆2019年度愛知県臨床検査技師会特別研修会…………… (9)
- ◆平成31年度日本臨床衛生検査技師会中部圏支部第35回臨床血液部門研修会… (10)
- ◆講演会・基礎講座・研究会…………… (10)
- ◆2019年度愛臨技新人サポート研修会… (12)

新年度（2019年度）を迎えるにあたり

公益社団法人 愛知県臨床検査技師会 会長 中根 生弥

新年度を迎えるにあたり、ご挨拶申し上げます。

当会は現在、3,350名を超える会員を有する職能団体として、数多くの公益事業を遂行しており、2020年には創立70周年を迎えることとなりました。これも偏に、諸先輩方が当会の事業にご理解とご協力いただき、県民の健康増進と公衆衛生の向上に尽力いただいた賜物と、心より感謝申し上げます。

さて、2019年5月より平成から新しい元号に変わることで、日本全体の気運に何かしらの変化を期待しているのは私だけでしょうか？（新元号の発表が気になる次第です）

昨年は、「医療法等の一部を改正する法律」が施行されたことで、検体検査が医療の根幹であるということが「法令上」において明確になったことの意義は大きく、これまで以上に臨床検査の品質および精度管理に係る基準が明確となりました。今後、検体検査の総合精度保証を我々臨床検査技師が実践することで、医療分野への貢献の一助になると確信しております。

一方、医療を取り巻く環境は、少子・高齢化に拍車がかかり、医療技術の進歩や医療提供の場の多様化等により大きく変貌し、安全で良質な医療の提供が求められております。特にゲノム医療・病棟検査業務・在宅検査業務への展開は必至であり、更には検査の標準化・共有化に加え、AIの導入によって臨床検査の在り方も大きく変革することが予測できます。

この様な医療環境の中、職能団体として学術活動を通じ、臨床検査の精度向上と最新医療の知識や技術を習得し、広く県民の皆様は臨床検査並びに臨床検査技師を知っていただく活動も行いながら、当会の目的が達成できるように努めてまいります。2019年度も会員の皆様のご理解とご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成 30 年度スキルアップ研修会に参加して

JA愛知厚生連江南厚生病院 和田 裕司

平成31年2月3日(日)に平成30年度スキルアップ研修会－救急病態と臨床検査を繋ぐ。Ⅲ－が名古屋市立大学医学部 医学部研究棟にて開催されました。私は昨年と一昨年もスキルアップ研修会に参加させていただき、多くの学びがあり有意義な研修会であったため、今年度も研修会に参加させていただきました。

血液ガスの講演では、「血液ガスの理解を深めよう」をテーマに昨年までの講義の復習からお話していただき、血液ガスの基本的な部分から学び直すことができました。一緒に参加した後輩は「今までで一番分かりやすく、有意義な講演であった。」と言っており、とても勉強になる講演でした。血液ガスに苦手意識を持っている新人も多いと思うので、この講演で学んだことを持ち帰り、院内での勉強会に活かしていきたいと思いました。

症例1,2では腹痛が起きる疾患について、臨床所見や検査データが提示され、データ解釈の考え方や追加すべき検査など、各部署の先生方の考えを聞くことができました。普段のルーチン業務で携わっていない部署は苦手意識をもっており、日当直中に不安な部分もありますが、部署をまたいで考えていくことが大切だと感じました。

特別講演では、救命救急科の先生に講演していた



だくことで、検査室や電子カルテだけではわからない臨床現場での考えを聞くことができました。臨床所見から先生が何を疑い、診察を行っているかわかることで、自分が検査した結果をより自信をもって臨床に返すことができると感じました。

普段の業務を行っている部署だけでなく、他部署の検査や考え方を知ることができ、有意義な研修会でした。今回の研修内容を復習し、疑問点等は先輩技師に相談し、自信をもって日当直業務が行えるように今後も積極的に研修会など参加していきたいと思います。



平成30年度初級・職能開発講習会、都道府県ニューリーダー育成講習会、管理運営研修会、各研修会同日開催

組織部長 刑部 恵介

平成31年2月17日藤田医科大学3号館にて、卒後3～5年程度の方を対象とした初級・職能開発講習会、卒後5～15年程度の方を対象とした都道府県ニューリーダー育成講習会および管理運営研修会（愛知県臨床検査技師長協議会共催）の3研修会を同日に開催しました。初級・職能開発講習会および都道府県ニューリーダー育成講習会の午前は合同で

講演を受講し、午後からはそれぞれに分かれグループワークを行いました。管理運営研修会は午後からの開催で“臨地実習”を中心とした研修会でした。初級・職能開発講習会へは22名、ニューリーダー育成講習会へは36名、管理運営研修会へは48名の参加で盛大に開催されました。来年度も継続して開催致しますので、ぜひご参加ください。

初級・職能開発講習会に参加して

平成31年2月17日に藤田医科大学で開催された初級・職能開発講習会に参加させていただきました。

午前の部は日本臨床検査技師会の宮島会長、横地副会長による「医療情勢と今後の方向性」、「多職種連携医療で活躍する臨床検査技師」というテーマの講演でした。目まぐるしく変遷する医療情勢の中で、第4次産業革命として国を挙げて開発に力を入れているAIが検査室にも進出することが予想され、臨床検査技師の働き方を変えていかなくてはならないことを学び、考えさせられるものでした。臨床検査技師が従来のような「検体を測定し、検査データをいかに正確かつ迅速に臨床へ返す検査室」ではなく、患者さんに検査説明や検査結果の説明を行ったり、検体採取を行ったりと検査室の外へ出て働く時代になってきていることを強く実感しました。

また、在宅医療の場で臨床検査技師の需要が増えていることも学びました。在宅医療における臨床検査技師は検査全般を行い、採血データを医師に渡す際にはデータの見方に特化しているため、診療がスムーズとなり医療の質も向上するなどのメリットがあります。普段病院で勤務している身としては想像もしたことがない話で凄く興味を持って聞くことができました。

午後の部ではKJ法を用いたグループディスカッションを行いました。テーマは午前の講演内容に関して思うことを自由に議論するというもので、最後

名古屋第二赤十字病院 白木 涼

に各グループで議論した内容を発表する形式で行われました。各グループでは「認定資格取得後の職場への活かし方」や「臨床検査技師が検査室を飛び出して臨床と関わり合いながらできる仕事はなにがあるか」、「部内、他職種とのコミュニケーションの取り方」など様々な議論が熱く交わされました。グループディスカッションを通して自身と異なる視点や考え方を学ぶことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

この会を通して学んだことを自身の職場に活かし、今後訪れる医療情勢の変遷に対応できるように準備をしていきたいと思いました。



都道府県ニューリーダー育成講習会に参加して

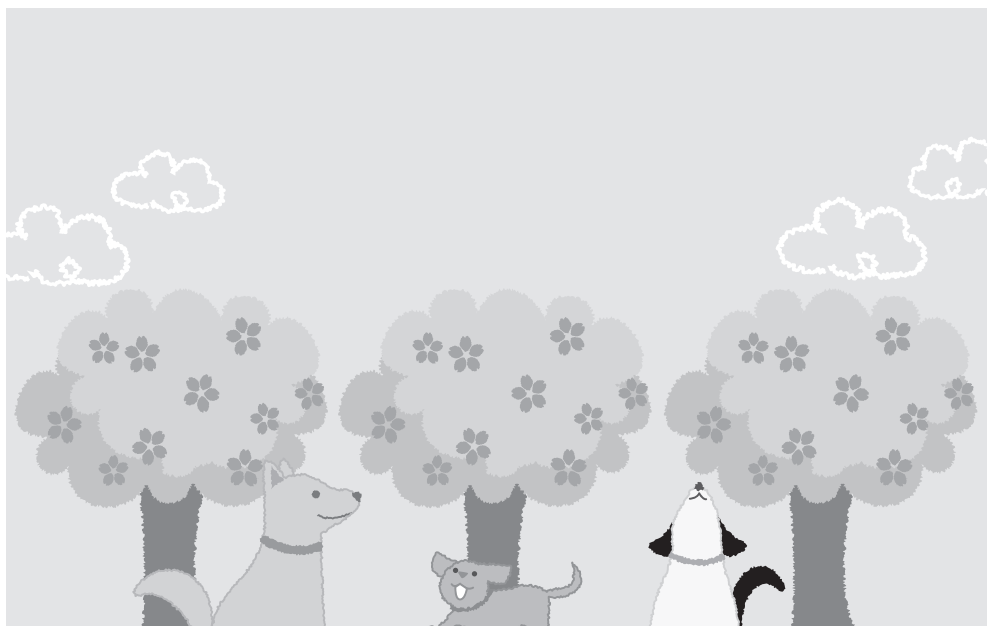
藤田医科大学病院 山口 高明

平成31年2月17日に開催された都道府県ニューリーダー育成講習会に参加させていただきました。この講習では技師会や職場で活躍できる、次世代を担うリーダーの育成をテーマに、医療情勢や臨床検査技師の未来像、組織目標達成に向けた考え方や、現状分析、課題解決力などを学ぶ内容になっていました。

午前は、宮島会長による「医療情勢と今後の方向性について」をテーマとした講話と、横地副会長による「多職種連携医療で活躍する臨床検査技師」をテーマにした講演を聴講させていただきました。講演の中で横地副会長のリーダーに求められることの1つに「ティーチングができるだけでなく、コーチングもできるべき。」という言葉が特に心に残り、後輩や新人を指導する際に、ただこちら側から教えるだけでなく、答えを導くためにこちら側から質問したり、考えを聞いてあげることで、自分で考える力を養わせる機会を与えてあげることも必要なのだと再認識できました。その他にも今後の臨床検査技師像などを改め考えることのできる貴重で有意義な講演でした。

午後のグループワークでは、職場における課題の解決をフレームワークとKJ法を用いて行うやり方を、「新人教育」をテーマに学びました。グループ

全員でそれぞれの思う新人教育に関する課題を付箋に書き出し、付箋の内容が似ているものをグループごとにまとめる作業をしていく中で、自然とグループの方々と新人教育あるある等で話が盛り上がり、病院が違っても抱える課題は同じなのだと感じました。解決策を話し合うところまでは時間の都合で出来ませんでしたが、個人的には時間を延長してでもグループの方々と話し合いたいと思えるほど、とても楽しい時間でした。今後もこのような講習会には、積極的に参加していきたいと思います。



平成30年度管理運営研修会

愛知医科大学病院 今井 正人

平成31年2月17日(日)に平成30年度管理運営研修会が藤田医科大学3号館104教室にて開催されました。今回の研修会は、藤田医科大学医療科学部臨床検査学科の石川浩章准教授と雪竹潤准教授が「藤田医科大学における臨床検査技師教育－今、求められる臨床検査技師教育客観的臨床能力試験（OSCE）を含めて－」という養成校の臨床検査技師教育の現状について講演され、豊田厚生病院の田中浩一技師が「豊田厚生病院における臨地実習への取り組み－臨地実習を通してみえた、実習生が思い描く臨床検査技師としての将来像－」という病院における臨地実習の取り組みについて講演されました。

養成校の教育では、専門職連携教育、チーム基盤型学習や解剖実習といった藤田医科大学ならではの特色ある実習を紹介されました。また、医学部、歯学部、薬学部では用いられているOSCEは臨床実習を行う臨床能力を身につけているかを試す実技試験ですが、臨床検査学の分野ではおそらく藤田医科大学が初めて行っている大学で、実際の動画などを用いてOSCEの紹介がありました。

病院での臨地実習の取り組みでは、豊田厚生病院の臨地実習でのカリキュラムが紹介され、臨地実習マニュアルを作成、使用して検査部門の職員みんなで取り組んでいました。学生には個人目標を立ててもらい、現場を体感し、医療スタッフと対話をして実習の最後には達成評価として興味を持ったことのプレゼンテーションをしてディスカッションするとう充実した実習をしているように思いました。これから臨地実習を受け入れる施設にとっても参考になる内容でした。私の施設にもいろいろな養成校から臨地実習に来ますので他施設がどのように実習をしているか知ることができ大変参考になりました。

学生が求めている将来像や現場の技師が新人に求めることはいろいろとあると思います。そのために養成校と実習先との連携強化、相互の教育内容の整合性および充実が必要だと思います。管理運営研修会には初めて参加させていただきました。これから管理運営について学ばなければならないことが多くとても参考になりました。最後に、管理運営研修会を開催してくださった方々にこの場を借りて心より御礼申し上げます。



平成30年度認知症対応力向上講習会に参加して

なかねクリニック 山田英津子

友人と会えば物忘れエピソード大会が毎回繰り広げられ、心とは裏腹にどっぷりミドル世代、そんな自分にとって全く他人事でない認知症は、誰もが関わりなく過ごすことは不可避なのではないでしょうか。脳神経外科病院に勤めていることもあり認知症の基本知識や対応の仕方、検査技師として関われる専門性などに興味があり今回この講習会に参加させていただきました。

ビデオ視聴は神経心理学検査総論から道路交通法改正まで多岐に渡っていました。検査により受診者を精神的に傷つける可能性があることは日常業務で長谷川式テストをしながら感じていましたが、臨床心理士による認知症高齢者とのやり取りでは、受診者に安心感を与える秀逸なテクニックがとても参考になりました。また近年頻回にあがる高齢者の事故や逆走の映像に、あぶない！と思わず声をあげドキドキさせられました。

各検査総論の視聴後は受講者同士で実際のテストをし合います。めいっぱい頭を活性化させても満点になる自信はなく（実際いくつか間違えました）、ならばと知らない分からない、途中で怒る、早く終わりたいから適当に言う等々関わったことのある受



診者の様子を思い出しながら演技をしましたが、検者役の方に戸惑いはなく上手に最後まで導かれてしまい少々悔しい思いをしつつも大変勉強になりました。

長時間缶詰のスケジュールに正直眠気との戦いかと心配でしたがこのように終始寝る間もなく、真剣勝負（笑）な実習に頭は疲れつつも楽しく終わりました。また機会があれば参加したいですし、得られた知識を周囲と共有し受診者やご家族に寄り添った関わりができるよう努めていきたいと思います。



公立陶生病院は、名古屋（栄）から名鉄瀬戸線で30分程度の瀬戸市内にあります。

瀬戸市といえば、瀬戸もの陶器の街、万博の街、瀬戸焼きそばの街（?）、ゆるキャラのせとちゃん（?）、最近で言えば将棋の藤井聡太さんが全国的に瀬戸市の知名度を押し上げた事でも有名です。

毎年9月にはせともの祭があります。他にも岩屋堂公園という奇岩や滝などダイナミックな自然を感じられる公園があったり、地下にあるわけではないのに地下街と呼ばれる商店街があったり、魅力たっぷり（?）の瀬戸市に是非遊びに来て下さい。

さて、陶生病院は瀬戸市、尾張旭市、長久手市の三市から構成される公立病院となります。許可病床数は633床（一般602床、結核25床、感染6床）で3次救急体制、災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院など様々な役割を持った尾張東地区を担う総合病院として位置付けられています。当院は救急医療を積極的に行っており、年間7000台前後の救急車を受け入れています。瀬戸市の救急隊が常時病院に待機し、重症患者の救急要請があれば、医師が救急現場に派遣できるドクターカーも保持しています。外来では毎日1600名近い外来患者が来院され、尾張東地域だけでなく、近隣の春日井市や名古屋市東部からも多くの患者が当院を訪れて下さっています。「地域の皆様に親しまれ、信頼され、期待される病院を目指します」のモットーを持ちますが、地域を越えて活躍できる病院を目指して日々奮闘しています。

公立陶生病院は2014年1月に新西棟が稼動し、

2018年5月には臨床検査部が入る新東棟が稼動しました。この臨床検査部移設の際には大変な労力を費やしました。検査部レイアウト作成、インフラの設計、システム選定・構築、機器選定、機器ランニングテスト、引っ越し作業、技師指導など課題が永遠に出てくる状況の中で日常業務もこなしていました。今回の移設では、検体検査室は多くの機器を新規導入し、電子カルテ、検査システムも違うものになりました。検査機器の更新は難しいことではなかったですが、検査システムの変更は操作概念が全く異なることもあり、マスター構築はもとより日常業務をこなすのも困難を極めました。特に夜勤帯にしかシステムに触れる事のない細菌室や生理検査室の技師の不安は大きく、技師一人となってしまう当直中のストレスは計り知れないものでした。結局システムに慣れるまでには数ヶ月を要しました。現在に至っても問題は時々発生しますが、それに一つずつ対応をし、少しずつ形にはなっているのではないかと思います。大変な苦労はしましたが、若い検査技師の多い当院臨床検査部にとって大きな経験となったのではないかと思います。

最後になりますが、公立陶生病院が所属いたします尾張東地区は、2019年7月7日（日）サンプラザシーズンズにて第19回愛知県医学検査学会を担当いたします。円滑な運営を心掛け、快適な学会になりますよう準備いたしますので、奮っての参加をお待ちしております。



“渥美半島をどんどん行くと、
どんぶり街道が続きます
渥美半島は食材がいっぱい
料理人の技とアイデアで
おいしいどんぶりになりました
食べにおいでん、遊びにおいでん”
－どん井おいでん委員会－

今年で6回目となりました、『渥美半島どんぶり街道』。今年は28店が参加し、各店パンチの効いたボリュームどんぶりが出揃いました。スタンプラリー制で、10店舗達成でどんぶり箸スプーンセットが、20店舗達成でメロン狩り優待券や産直物が、全店制覇でホテル宿泊券やフェリー乗船券、食事券などがもらえます。

わが渥美病院検査室有志で何軒か回ってきたので、紹介したいと思います。まず、若者人気といえは肉丼。地元みかわポークや渥美牛をふんだんにのせた、しょうが焼き丼、角煮丼、ベーコン丼、かつ丼、焼肉丼、ビビンバ丼、などなど。

今回私は地元の養蜂園で採れた菜の花はちみつと福井の麹みそがコラボレーションした、ハニーみそかつ丼を楽しんできました。とんかつ屋ならではの厚いとんかつに、甘めのみそがしみこみ、くせになる美味しさでした。キャベツはお替り自由で、2杯食べました。

渥美半島は魚介類も新鮮です。地元で採れた釜揚げしらす丼、大あさりかつ丼・天井、海鮮丼、うな



ぎ丼などなど。魚貝部門はかき揚げしらす丼を紹介したいと思います。大きなサイコロのようなかき揚げが、しらすごはんの上に上手にのっかったこの丼ぶりは、ひつまぶしのようにわさびをのせたり、だし汁をかけたりと変化球が仕込まれていました。最後まであきずにおいしく食べることができました。

山あり海あり、肉あり魚あり、野菜あり果物あり花ありの渥美半島には美味しいものが沢山あり、そんな場所にある渥美病院には必然と華ある職員がそろっています。

“近くにきた折にはぜひ、 食べにおいでん、遊びにおいでん”



ハニーみそかつ丼



かき揚げしらす丼

世界禁煙デーキャンペーン ボランティア募集について



愛知県では、毎年5月31日の「世界禁煙デー」及び同日から1週間の「禁煙週間」に合わせて、喫煙の健康影響についての知識普及を図るためにキャンペーンを実施しています。

愛臨技も例年このキャンペーンに参画し、公益社団法人としての公益活動の一環としております。また、臨床検査技師の社会的認知度を上げるためにもまたとない機会です。

よって、下記の要領でボランティアを募りますので、会員の皆様の多数の参加をお待ちしております。

記

日 時：2019年5月31日（金曜日） ※予定
午後12時00分～概ね30分から1時間程度
場 所：名鉄百貨店本店ヤング館前（ナナちゃん人形南側） ※予定
（名古屋市中村区名駅1丁目）
主 催：愛知県健康福祉部保健医療局健康対策課
内 容：世界禁煙デーおよび禁煙週間についての呼びかけや啓発資料の配布

※日時、場所については変更になる場合があります。

生涯教育履修点数：基礎教科 20点

申込方法：各地区理事に連絡願います。

お問合せ先

組織部長 刑部 恵介

藤田医科大学 医療科学部 臨床検査学科

TEL (0562) 93-9430

E-mail kosakabe@fujita-hu.ac.jp

2019年度 愛知県臨床検査技師会 特別研修会

『臨床検査技師は10年後も必要とされているか？』

我々臨床検査技師は専門スキルで医療に貢献し現場で必要とされています。しかし臨床検査に関連する様々な技術が進歩したときに、我々の業務はどう変化するのでしょうか？

自動運転技術が進歩し、手放し運転が可能になったとしても、運転免許所持者が運転席から消えるのは、まだまだ先の事だと思います。しかし我々のスキルを機器やAIが得た時に我々は必要とされるのでしょうか？我々を取り巻く厳しい現実、10年先を見据えたときに今すべきことを日本臨床衛生検査技師会の宮島会長に講演していただきます。我々の進むべき方向を決定する管理職クラスの方々、後輩達を引っ張る中堅の方々、自分達の大切な将来がかかっている若手の方々、あらゆる世代の方々に参加して頂き、思いを共有したいと思います。そして我々が成し得たいことを宮島会長にぶつけてみましょう。

基礎教科：20点

日 時：2019年4月19日（金） 19：00～20：30

講演 60分 質疑応答 30分

場 所：安保ホール 601号室

※名古屋駅より徒歩5分（下図参照）

講 師：日本臨床衛生検査技師会

宮島 喜文 会長

司 会：愛知県臨床検査技師会

岡田 元 副会長

対 象：ベテランから若手まで様々な世代



平成31年度日本臨床衛生検査技師会 中部圏支部 第35回臨床血液部門研修会

日時：2019年10月26日(土)～27日(日)

場所：つま恋リゾート彩の郷
静岡県掛川市満水2000番地

テーマ：深めよう！

～血液疾患を最初に見つけるために～

定員：180名

参加費：9,000円(2日間参加)

募集期間：4月15日(水)～5月31日(日)

先着順受付、定員になり次第締め切り。

申込先：日本臨床検査技師会HP会員専用ページ
より各自で必要書類(PDF)をダウンロードして申し込み手続きを行って下さい。

講演会

病理細胞検査研究班

専門教科：20点

日時：2019年5月18日(土) 15:00～17:00

場所：リップルスクエア
名古屋市東区桜1-1-10
アーバンネット名古屋ビル20F
久屋大通(地下鉄名城線)出口3B

テーマ：切り出しと薄切・特殊染色

講演1：薄切のポイントとコツ

JA愛知厚生連 江南厚生病院
川崎 真紀

講演2：主な特殊染色の原理と方法

名古屋市立大学病院 松井 竜三

講演3：切り出し～病理医の立場から～

愛知医科大学病院 病理医 都築 豊徳

司会：西尾市民病院 中村 広基

内容：切り出しの適否は病理診断の信頼性に関係するため非常に重要な業務です。今回は病理医の立場から切り出しについて講演して頂きます。また、薄切、特殊染色の基礎的内容からコツまで日々の業務に役立つ内容も説明して頂きます。多数のご参加をお待ちしています。

講演会

一般検査研究班

専門教科：20点

日時：2019年5月11日(土) 15:00～17:00

場所：AP名古屋7階 会議室L

住所：愛知県名古屋市中村区名駅4-10-25
名駅IMAIビル7階
TEL：052-561-1109

テーマ：一般検査から分かるファブリー病

講師：1. 尿沈渣を契機にファブリー病の診断
に至った一症例

小牧市民病院 臨床検査科

前田 佳成

2. 「臨床検査でファブリー病を推測する
ための必要な基礎知識」

～ファブリー病の検出に不可欠な
ポイントとは何か～

大阪大学附属病院 臨床検査部

堀田 真希

3. ファブリー病の実際！

～病態・検査・治療について～

名古屋セントラル病院 血液内科
ライソゾーム病センター

坪井 一哉

司会：社会医療法人 宏潤会 大同病院
臨床検査部

浅井 千春

内容：ファブリー病は種々の症状を引き起こし
その診断には苦慮することが少なくあり
ません。しかし、尿沈渣を契機にその診
断に至ることもあるため、一般検査の役
割は重要です。ファブリー病の臨床症状・
病態・検査全般についてと一般検査との
関わりについて、また、実症例について
講演頂き、日々の業務で役立てて頂きたい
と思います。会場への詳しいアクセス
方法は、「AP名古屋名駅」のホームペ
ージにてご確認ください。

多くの方のご参加をお待ちしております。

主催：公益社団法人愛知県臨床検査技師会

共催：Amicus therapeutics株式会社

基礎講座

一般検査研究班

専門教科：20点

日時：2019年6月30日(日) 10:00～16:00

場所：豊田厚生病院2階講義室ABC

テーマ：尿沈渣の基礎

～認定一般検査技師はこう見る～

I. 講演

1) 赤血球・白血球の見方

名古屋掖済会病院

杉原 幸子

2) 上皮細胞の見方

名古屋第二赤十字病院

野村 勇介

3) 円柱の見方

JA愛知厚生連 江南厚生病院

杉浦 里佳

4) 結晶その他の見方

岡崎市保健所

佐藤 千歳

II. 尿沈渣ハンズオンセミナー

～認定一般検査技師の目線～

《基礎編》公立西知多総合病院

服部 聡

《症例編》

社会医療法人 明陽会 成田記念病院 望月 里恵

申込方法：日臨技ホームページの会員専用ページからログインして事前参加登録を行ってください。

(URL: www.jamt.or.jp/index.php)

HPから事前登録が困難な方は必要事項をご記入の上、メールにてお申込みください。

申込・問合せアドレス: ippannaichi@yahoo.co.jp

《必要事項》

①所属県名 ②会員番号 ③漢字氏名(ふりがな)
④年齢 ⑤性別 ⑥一般経験年数 ⑦施設名 ⑧所属部署
⑨施設住所 ⑩電話番号 ⑪メールアドレス ⑫連絡先住所

連絡先：JA愛知厚生連 豊田厚生病院

臨床検査技術科 鈴木 康太

〒470-0396 豊田市浄水町伊保原500-1

TEL: 0565-43-5000

(連絡はPM4時以降にお願いします)

定員：120名

参加費(当日徴収)：1,500円

※県外会員：2,000円 非会員：3,500円

申込期間：2019年4月1日(月)～6月15日(土)申込み受領についてはメールでご連絡します。

※6月16日までに受領メールが届かなかった場合は、上記連絡先までご連絡ください。

また、キャンセルの場合は、直ちに会員専用ページからキャンセルの処理を行ってください。

昼食は各自でご準備ください。

研究会

輸血検査研究班

専門教科：20点

日時：2019年5月11日(土) 15:00～17:00

場所：名古屋市立大学病院 講義室A

テーマ：苦手克服！日当直で困らない輸血検査のトラブルシューティングを学ぼう！

講師：1. 血液型編

名古屋第一赤十字病院 村上 和代

2. 不規則抗体編

JA愛知厚生連 豊田厚生病院

木村 有里

3. 交差適合試験編

豊川市民病院

沖松 秀美

司会：愛知医科大学病院

片井 明子

内容：輸血検査は、安全な輸血療法を支える重要な検査です。それ故、日頃輸血業務をしていない方にとって、苦手意識や恐怖心がある業務ではないでしょうか？今回は日当直時に遭遇するかもしれない“困った”事例を「血液型検査」「不規則抗体検査」「交差適合試験」の3つの場面で取り上げ、どのように結果を解釈し検査を進めるか、専任技師にどのように繋ぐかなどの対応について解説します。日当直時のみ輸血に関わる方はもちろん、新規採用者の方、指導的な立場の方など多くの参加をお待ちしております。

2019年3月11日現在 正会員数 3,324名

2019年度愛臨技 新人サポート研修会

『学びを力に変える！実践力アップの基礎とコツ』

平成30年度新卒および医療機関、臨床検査関連企業への新規採用の臨床検査技師を対象に、実際の医療現場で必要となる知識と技術の提供と、幅広い臨床検査分野の紹介をします。

【日時】2019年5月26日（日）9：30～16：40（9：00から受付）

【会場】名古屋市立大学医学部 医学研究科 医学部研究棟11階 講義室A

【募集人数】150名

【参加費】日臨技・愛臨技会員および入会予定者 2,000円

他県会員および他県入会予定者 2,500円 非会員 4,000円

【昼食代】1000円（お茶付き）（別途徴収）

【申し込み】2019年4月8日から5月10日まで愛臨技HPからWeb申込み

【生涯教育】基礎 20点（日臨技入会手続き済の場合のみ）

【プログラム】

9：00～9：30 受付

9：30～9：40 オリエンテーション・開講式

愛臨技会長 中根 生弥

【午前の部】

司会 名古屋大学大学院 鈴木 博子

9：40～10：10 ①「日当直者が知っておきたい微生物検査の基礎知識」

JA愛知厚生連 安城更生病院 近藤 好

10：10～10：50 ②「明日から役立つ血液検査の基礎」

医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 宮本 康平

「明日から役立つ凝固検査の基礎」

JA愛知厚生連 江南厚生病院 船橋 里奈

11：00～11：40 ③「生化学・免疫検査における緊急検査の基礎」

JA愛知厚生連 安城更生病院 菊田まりな

11：40～12：00 ④「身近に感じよう病理検査」

豊橋市民病院 榊原 沙知

【ランチョンセミナー】

12：15～13：15 ⑤「日臨技・愛臨技の紹介、愛臨技学術部活動の紹介」

愛臨技会長 中根 生弥

愛臨技学術部長 内田 一豊

【午後の部】

司会 春日井市民病院 神野 洋彰

13：40～14：20 ⑥「心電図検査の心得」

JA愛知厚生連 海南病院 樋口 昌哉

14：20～15：00 ⑦「尿検査の基礎」

藤田医科大学ばんだね病院 進藤龍太郎

15：10～15：50 ⑧「これだけは押さえておきたい輸血業務のコツ！」

愛知医科大学病院 片井 明子

15：50～16：10 ⑨「検査室における遺伝子検査の役割」

名古屋第二赤十字病院 岩田 英紘

16：10～16：30 ⑩「私たちこんなことやってます～生殖補助医療の現場より～」

社会医療法人財団新和会 八千代病院 小笠原 恵

16：30～16：40 閉講式

愛臨技学術部長 内田 一豊

【問合せ先】豊橋市民病院 中央臨床検査室 内田 一豊 TEL：0532-33-6111